

第 2 回防災教育推進連絡協議会 in 田辺市 プログラム

■日程 平成 27 年 8 月 20 日（木）・21 日（金）
■会場 田辺スポーツパーク（〒646-0061 田辺市上の山一丁目 23-1-1 田辺スポーツパーク管理事務所内 TEL 0739-25-2531）

1 日目：8 月 20 日（木）

9:00- 9:30	受付
9:30-10:00	開会 ・挨拶（真砂充敏 田辺市長、中村久仁生 田辺市教育長、片田敏孝先生） ・田辺市における防災教育に関する取組の紹介（寺本行雄先生：田辺市防災教育担当者会会長）
10:00-12:30	パネルディスカッション 1 「シンサイミライ学校にみる防災教育のためのコミュニケーション力」 ・話題提供 1：シンサイミライ学校のビデオ視聴 ・話題提供 2：「自分の命は自分で守る～シンサイミライ学校から学んだこと～」 （佐々木三千代先生：当時の田辺第一小学校の先生） ・討 論：『防災教育に求められるコミュニケーション』 パネリスト：左海 伸和さん（当時の田辺第一小学校の児童保護者） 佐々木三千代先生（当時の田辺第一小学校の担任教員） 玉置 浩先生（現在の田辺第一小学校の先生） 京田 光広さん（シンサイミライ学校のディレクター） 片田 敏孝先生（群馬大学：授業実施者） コディネーター： 金井 昌信（群馬大学）
12:30-14:00	昼食 ※こちらでお弁当を用意いたします。（一人 950 円を当日徴収させていただきます）
14:00-16:30	パネルディスカッション 2 「『新庄地震学』にみる地域と連携した防災教育とその継続」 ・話題提供 1：「新庄地震学」（新庄中学校生徒発表） ・話題提供 2：「防災教育と地域連携」 （谷本 明先生：現在の新庄中学校の先生） ・討 論：『地域と連携した防災教育とその継続』 パネリスト：川口 幸三さん（新庄公民館館長） 谷本 明先生（現在の新庄中学校の先生） 榎谷 節生先生（衣笠中学校、新庄地震学に長年取り組まれた先生） 小川 正先生（石川県輪島中学校校長） 金井 昌信（群馬大学） コディネーター： 川東 英治（群馬大学協力研究員）
17:30-19:30	懇親会（銀ちろ） ※会費 6,500 円を当日徴収させていただきます

2 日目：8 月 21 日（金）

9:00- 10:30	グループディスカッション 「防災教育のためのコミュニケーション力」＆「地域と連携した防災教育とその継続」 ・前日のパネルディスカッションを踏まえて、それぞれのテーマについてグループディス カッション ※休憩後、10:40 には新庄中学校に向けて、バスで出発する予定
11:15-12:00	新庄中学校視察 ・『新庄地震学』の授業を見学
12:15-13:30	昼食（丸長）＆新庄地区の防災に関する講話 ・話題提供：「昭和南海地震の様子について」 （真砂勝巳さん：新庄愛郷会会長／脇本祥司さん：新庄公民館主事） ※昼食は、お造り定食 or てんぷら定食（1,550 円）
14:00-16:00	グループディスカッションを踏まえた討論会 ・午前中のグループディスカッションを踏まえて、参加者全員で討論
16:00-16:30	閉会

Memo

参加者名簿

1. 各地域からの参加者

No	参加者	所 属	役 職	8月20日（木）		8月21日（金）	
				AM シンボ1	PM シンボ2	AM GD	PM 討論
1	濱 野 公 壽	尾鷲市立尾鷲小学校	教頭	○	○	○	○
2	畑 中 祥 司	尾鷲市立尾鷲小学校	教諭	○	○	○	○
3	大 川 太	尾鷲市立矢浜小学校	教頭	×	×	○	○
4	林 宣 行	串本町立古座小学校	教諭	○	○	○	○
5	山 本 健 一	新宮市立王子ヶ浜小学校	教諭	○	○	○	○
6	稲 垣 克 明	新宮市立三輪崎小学校	教諭	○	○	○	○
7	松 本 潤	新宮市立緑丘中学校	教頭	○	○	○	○
8	森 浦 展 行	新宮市立城南中学校	教諭	○	○	×	×
9	西 田 友 行	新宮市立三輪崎小学校	教諭	○	○	×	×
10	宮 本 雅 史	新宮市教育委員会	課長	○	○	×	×
11	福 田 哲 也	新宮市教育委員会	指導主事	○	○	×	×
12	二 岡 裕 幸	黒潮町立佐賀小学校	教頭	○	○	○	○
13	中 平 蔵	黒潮町立田ノ口小学校	教諭	○	○	○	○
14	宮 川 昭 二	黒潮町立大方中学校	主幹教諭	○	○	○	○
15	西 本 貴 俊	黒潮町立佐賀中学校	教頭	○	○	○	○
16	畦 地 和 也	黒潮町教育委員会	教育次長	○	○	○	○
17	五 十 嵐 一 浩	三条市立第四中学校	教頭	○	○	○	○
18	松 井 謙 太	見附市教育委員会	課長	○	○	○	○
19	森 本 晋 也	若手県教育委員会事務局	主任指導主事	×	×	○	○
20	菊 池 信 男	釜石市立栗林小学校	校長	○	○	○	○
21	大 森 美 子	釜石市立鶴住居小学校	教諭	○	○	○	○
22	三 浦 誠	釜石市立釜石中学校	主幹教諭	○	○	○	○
23	松 本 孝 嗣	釜石市教育委員会	指導主事	○	○	○	○
24	小 川 正	輪島市立輪島中学校	校長	○	○	○	○
25	大 句 わ か 子	能登町立小木中学校	校長	○	○	×	×
26	廣 澤 孝 俊	能登町立能都中学校	主幹教諭	○	○	○	○
27	上 田 好 美	牟岐町立牟岐小学校	教諭	○	○	○	○
28	栗 林 啓 次	牟岐町教育委員会	社会教育指導員	○	○	○	○
29	三 浦 洋 志	高知市立城西中学校	教諭	○	○	○	○

2. バネリストなど

No	参加者	所 属	役 職	備 考
1	左 海 伸 和	田辺第一小学校	保護者	8月20日AMのシンポジウム1のバネリスト
2	京 田 光 広	NHK	ディレクター	8月20日AMのシンポジウム1のバネリスト
3	川 口 幸 三	新庄公民館	館長	8月20日PMのシンポジウム2のバネリスト
4	脇 本 祥 司	新庄公民館	主事	8月21日昼食時の講師
5	真 砂 勝 巳	新庄愛郷会	会長	8月21日昼食時の講師
6	奈 良 由 美 子	放送大学	教授	文科省「リスクコミュニケーションのモデル形成事業推進会議委員

3. 群馬大学関係者

No	参加者	所 属	役 職
1	片 田 敏 孝	群馬大学	教授
2	金 井 昌 信	群馬大学	准教授
3	前 原 育 子	群馬大学	秘書
4	山 口 弥 那 子	群馬大学	技術補佐員
5	川 東 英 治	群馬大学	協力研究員
6	小 島 彰 吾	群馬大学	協力研究員
7	小 笠 原 舞	群馬大学	学生

4. 開催地（田辺市）からの参加者

No	参加者	所 属	役 職	8月20日（木）		8月21日（金）	
				AM シンボ1	PM シンボ2	AM GD	PM 討論
1	真 砂 充 敏	田辺市	市長	-	-	-	-
2	中 村 久 仁 生	田辺市教育委員会	教育長	-	-	-	-
3	木 下 和 臣	田辺市教育委員会	学校教育課長	○	○	○	×
4	嶋 口 善 一	田辺市教育委員会	指導主事	○	○	○	○
5	熊 野 雅 仁	田辺市教育委員会	係長	○	○	○	○
6	竹 邊 礼 子	田辺市教育委員会	生涯学習指導員	○	○	○	○
7	早 田 斉	田辺市防災まちづくり課	課長	○	○	×	×
8	的 場 大 輔	田辺市防災まちづくり課	係長	○	○	×	×
9	豊 田 昭 裕	田辺市立田辺第一小学校	校長	○	×	×	×
10	岡 崎 之 紀	田辺市立田辺第一小学校	教頭	○	×	×	×
11	玉 置 浩	田辺市立田辺第一小学校	教諭	○	○	×	×
12	佐々木 三千代	田辺市立田辺第一小学校	教諭	○	×	×	×
13	撫 養 明 美	田辺市立田辺第二小学校	校長	×	○	×	×
14	南 俊 秀	田辺市立田辺第二小学校	教頭	×	○	×	×
15	中 田 詩 子	田辺市立田辺第二小学校	教諭	○	○	○	○
16	切 原 清 美	田辺市立田辺第二小学校	教諭	×	○	×	×
17	谷 本 敬 介	田辺市立田辺第三小学校	校長	×	○	×	×
18	丹 後 貴 裕	田辺市立田辺第三小学校	教諭	○	○	×	×
19	古 久 保 広 巳	田辺市立新庄小学校	教諭	○	○	×	×
20	中 家 章 一	田辺市立新庄第二小学校	教頭	×	○	×	×
21	小 松 淳 視	田辺市立新庄第二小学校	教諭	○	×	×	×
22	木 村 誠	田辺市立会津小学校	教諭	○	×	×	×
23	浅 井 靖 也	田辺市立秋津川小学校	校長	○	×	×	×
24	中 本 克 彦	田辺市立三郷小学校	校長	○	○	×	×
25	福 田 裕 美	田辺市立長野小学校	教頭	○	○	×	×
26	堀 修 志	田辺市立咲楽小学校	校長	○	×	×	×
27	原 哲 朗	田辺市立上山路小学校	教頭	○	○	×	×
28	古 久 保 功	田辺市立龍神小学校	教頭	○	×	×	×
29	岸 本 晃 司	田辺市立鮎川小学校	校長	○	×	×	×
30	橋 博 正	田辺市立鮎川小学校	教頭	×	○	×	×
31	矢 倉 和 彦	田辺市立富里小学校	校長	○	×	×	×
32	鳥 越 博	田辺市立三里小学校	校長	○	○	×	×
33	新 行 靖	田辺市立東陽中学校	教頭	×	○	×	×
34	谷 川 達 司	田辺市立東陽中学校	教諭	○	×	×	×
35	寺 本 行 雄	田辺市立明洋中学校	教諭	○	×	×	×
36	井 瀬 敦 司	田辺市立新庄中学校	校長	×	○	×	×
37	坂 本 和 也	田辺市立新庄中学校	教頭	×	○	×	×
38	谷 本 明	田辺市立新庄中学校	教諭	○	○	○	○
39	木 下 綾 子	田辺市立新庄中学校	教諭	×	○	×	×
40	中 平 和 徳	田辺市立新庄中学校	教諭	×	○	×	×
41	速 水 亮 太	田辺市立新庄中学校	教諭	×	○	×	×
42	植 本 義 彰	田辺市立新庄中学校	教諭	×	○	×	×
43	吉 田 智 美	田辺市立新庄中学校	教諭	×	○	×	×
44	中 村 和 稔	田辺市立上芳養中学校	校長	×	○	×	×
45	池 千 秋	田辺市立上秋津中学校	教頭	○	×	×	×
46	谷 上 浩 正	田辺市立上秋津中学校	教諭	×	○	×	×
47	瀧 嶋 安 敏	田辺市立秋津川中学校	教諭	×	○	×	×
48	栞 谷 節 生	田辺市立衣笠中学校	教諭	○	○	○	○
49	尾 田 佳 風	田辺市立龍神中学校	教諭	×	○	×	×
50	山 根 千 明	田辺市立中辺路中学校	教頭	○	○	○	○
51	谷 口 勝 則	田辺市立大塔中学校	教頭	×	○	×	×
52	宮 田 博 之	田辺市立本宮中学校	校長	○	○	×	×
53	村 上 朝 博	田辺消防		×	○	×	×
54	谷 口 直 昭	田辺消防		×	○	×	×

パネルディスカッションの概要

■パネルディスカッション1（8月20日（木）10:00～12:30）

「シンサイミライ学校にみる防災教育のためのコミュニケーション力」

話題提供1 「シンサイミライ学校」のビデオ視聴

- ・NHK で放送された番組（片田先生が田辺第一小学校児童を対象に実施した授業）を上映

話題提供2 「自分の命は自分で守る～シンサイミライ学校から学んだこと～」

- ・片田先生の授業を受けた児童の担任をされていた**佐々木三千代先生**（田辺第一小学校）より、授業前後における児童の様子などについてご紹介していただきます

討論『防災教育に求められるコミュニケーション』

パネリスト

左海 伸和さん（当時の田辺第一小学校の児童保護者）

片田先生の授業を受けた児童の保護者の立場でご参加いただき、授業を受けた当時のお子さんの様子およびそれ以後のご家庭での防災に関する取組についてお話していただきます

佐々木 三千代先生（当時の田辺第一小学校の担任教員）

片田先生の授業を受けた児童の担任の立場でご参加いただき、当時の児童の様子等をお話していただきます

玉置 浩先生（田辺第一小学校の防災教育担当教員）

田辺第一小学校の防災教育担当教員の立場でご参加いただき、同校の現状等についてお話していただきます

京田 光広さん（シンサイミライ学校のディレクター）

番組ディレクターとして、授業を通じて感じられた児童の変化等についてお話していただきます

片田 敏孝（群馬大学：授業実施者）

シンサイミライ学校を実施する際に考慮したことだけでなく、児童生徒への防災教育で重要とされていること等について情報提供します

コーディネーター

金井 昌信（群馬大学）

■パネルディスカッション2（8月20日（木）14:00～16:30）

「『新庄地震学』にみる地域と連携した防災教育とその継続」

話題提供1 「新庄地震学」

- ・**新庄中学校生徒**から『新庄地震学』で学んだことを発表してもらいます

話題提供2 「防災教育と地域連携」

- ・新庄中学校の防災教育担当である**谷本明先生**から、『新庄地震学』の実施に際し、地域との連携や継続的に防災教育を実践していくために考慮していることなどについてお話していただきます

討論『『新庄地震学』にみる地域と連携した防災教育とその継続』

パネリスト

川口 幸三さん（新庄公民館館長）

『新庄地震学』の実践に協力している地域住民の立場でご参加いただき、学校防災教育に地域がどのように携わっているかよいのかなどについて、新庄中学校との経験を踏まえてお話していただきます

谷本 明先生（新庄中学校の先生）

新庄中学校の防災教育担当教員の立場でご参加いただき、同校の現状等についてお話していただきます

榎谷 節生先生（衣笠中学校、『新庄地震学』を長年取り組まれた先生）

『新庄地震学』を長年取り組まれた教員の立場でご参加いただき、『新庄地震学』を継続していくなかで考慮したことなどについてお話していただきます

小川 正先生（石川県輪島中学校校長）

地域と連携した防災教育を主導された校長の立場でご参加いただき、小木中学校でのご経験を踏まえ、地域と連携し、継続的に防災教育を実践していくために考慮したこと等をお話していただきます

金井 昌信（群馬大学）

他地域の事例など、地域と連携し、継続的な防災教育を実践するために重要と思われること等について情報提供します

コーディネーター

川東 英治（群馬大学協力研究員）

田辺市防災教育担当者会について

2015年8月20日(木)

和歌山県 田辺市



田辺市防災教育担当者会の取組

沿岸部ブロック 11校
中山間部ブロック 10校
山間部ブロック 22校

平成25年度

・防災教育実践集録の作成

平成26年度

・防災教育の手引きづくり

平成27年度

・防災教育の手引き完成
・研究授業の実施

平成23年 台風12号水害について

(9月2日～4日)

- ◆ 台風12号は、動きが遅く、記録的な大雨をもたらした。
- ◆ 本宮地域では、2日間で1000mmを超える雨量となり、和歌山県南部での観測史上最大の雨量となった。

山崩れによる国道311号の損壊 (田辺市中辺路町滝尻)



山崩れによる家屋全壊 (田辺市伏見野地区)



熊野川の氾濫による浸水 (田辺市本宮町)



大塔川の氾濫による浸水(本宮小学校西門・グラウンド)



浸水した本宮小学校のグラウンド



遊具・フェンスの損壊



(成果)

- 手引きづくりを通して、防災教育担当者の意識が少しずつ高まっている。

(課題)

- 教職員の防災教育に対する意識の温度差。
- 保護者、地域との防災に対する連携。
(中山間部、山間部)

最後に・・・

地域と連携した防災教育の取組を写真で紹介します。



防災訓練への参加

心肺蘇生法講習会

炊き出し体験

けむり体験

様々な体験訓練

校内屋上へ

避難訓練

園児の手を引いて高台へ

二次避難、校外の高台へ

沿岸部の避難訓練（明洋中学校）

中山間部の避難訓練（中辺路中学校）

町内会の避難訓練に参加（高雄中）

部活動中の避難訓練（高雄中）

合同避難訓練（東陽中）

山間部での防災講演会（近野中）

資料04-2

自分の命は自分で守る

～シンサイミライ学校から学んだこと～



田辺第一小学校
佐々木 三千代

東日本大震災(2011年3月11日)のとき

- ・当時小学校2年生
- ・田辺市でも大津波警報が流れた。

Aさん...友達といっしょに家に帰っている途中だった。
途中でおじさんに「警報が出たからはよ帰りよし。」と言われて急いで帰った。

B君...地震発生時は家にいた。
お母さんとの約束では学校に避難することになっていた。一度家を出て学校に行こうとしたが、途中で友達の家に行って遊んでいた。
お母さんはこのB君を探し回った。

Cさん...家にいた。
放送は聞こえたけれど、何もせずそのまま遊んでいた。

- 津波が来るかもしれないと思い、家の二階や屋上に上がった児童は数名。
- ほとんどの児童は避難しなかった。



シンサイミライ学校以前の児童の実態

- ①津波の怖さを知らない。
- ②逃げなければいけないと分かっているけどどこに逃げればよいかわからない。
- ③津波が来ると分かったときの行動を家族で話し合っていない。

津波の怖さを知る その1

◆2012年5月 小学校4年生

①「いなむらの火」の紙芝居



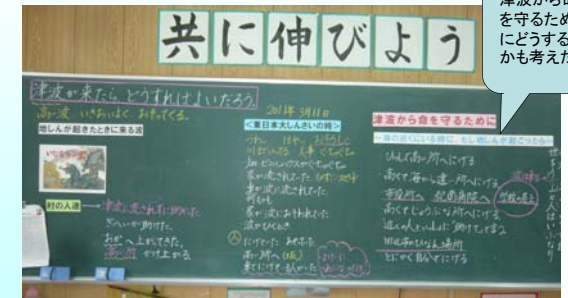
津波の怖さを知る その2

②東日本大震災の映像

<児童の感想>

- ・津波が来て人々はあせっていた。車で逃げても津波におそわれたら逃げられなくなると思った。
- ・津波はものすごいスピードで来ていました。木も家も船もいろいろな物が流されていてこわかった。
- ・津波はものすごいスピードで勢いよく来るからとてもこわいと思った。もし家族が死んでしまっただけりぼっちになったらどうしようと思った。

防災授業の板書



避難場所を知る

◆とにかく高くてじょうぶで海から遠い所

- ・紀陽銀行
- ・玉置病院
- ・NTT
- ・学校の屋上
- ・愛宕山



より安全な
避難場所

・オーシティ



学校からオーシティへの避難訓練

◆学校からオーシティまでは1.4Kmくらい
保護者の方といっしょにグループで避難訓練



家で一人にいるときに地震が起こったら...

◆シンサイミライ学校以前

- ・家族に連絡して、帰ってくるまで待っておう。
- ・家族が迎えに来てくれるまで待っておう。
- ・帰って来るのを待って、家の人といっしょに逃げよう。



片田先生は

みんなを助けに来た家の人はどうなるのだろう？
逃げ遅れたりしないのかな？

「津波てんでんこ」



◆三陸地方に伝わる津波から子孫を守るための知恵

地震があったら、家族のことさえ気にせず、てんでばらばらに、自分の命を守るために、一人ですぐに避難せよ。

アニメ 「約束の命」



家族がお互いに一人ひとりがちゃんと逃げるということを信じ合っていて、一人ひとり別々に逃げるのが、家族一人ひとりの命を守ることになる。

授業後の感想

学習をする前は、津波が来ると分かってても、自分一人で逃げることは絶対にできないと思っていました。でも、学習した今では、自分一人でも逃げないと、自分も家族も死んでしまうかもしれないということが分かって、「自分で逃げよう」と思うようになりました。家族とも「私は一人でもちゃんと逃げるから、お母さん達も逃げてな。」と約束しました。

学習をする前は、津波がくると分かったときに、どこに逃げればいいのか分からなかったけど、今は、安全な高い所に逃げようと思います。自分の命は自分で守るということを学んだので、できるようにがんばりたいと思います。もし津波がきたときに、家族を待っていたら自分の命も家族の命も危ないので、自分ひとりでもちゃんと逃げたいと思います。家族も安全な場所に逃げてくれると思います。

シンサイミライ学校で学んだこと

- 自分の命は自分で守る
「津波のことを知り備えること」「高いところ高いところへと逃げること」「自分から進んで逃げること」が大切である。
- 家族の絆
みんなが助かるためには家族が互いに信頼し合うことが大切である。
- 故郷田辺を愛する心
津波がくるかもと恐れて生活するのではなく、愛する故郷田辺から犠牲者を出さないために自分達が今できる最善のことを考え実行していくことが大切である。

「シンサイミライ学校」以降の防災学習

防災マップ作り

参観日の授業で、地区ごとに集まって、どこに逃げるのが安全か保護者の方といっしょに話し合った。



話し合ったことをみんなの前で発表



防災マップ



- 自分の家と放課後よくいる場所
- 避難経路(色分け)
- 家の人との約束
- 避難にかかる時間

「シンサイミライ学校」以降

①家庭では・・・

- 地震や津波について話す機会が増えた。
- 防災グッズの点検や避難経路の確認をした。
- 作った防災マップを使って避難訓練をした。

②保護者では・・・

- 子どもだけでは心配・不安 ⇒「自分の命は自分で守る。自分ひとりでも逃げる」という子どもを信じよう。

③子どもは・・・

<ある日の地震>

- 学校の近くにいた児童は
- 家にいた児童は
- 帰る途中だった児童は

<意識の変化>

- 子どもから大人に伝えていかなければならない。
- いざという時は、私達高学年が低学年を連れて逃げないといけない。
- 家族って大切。

今、田辺第一小学校では

「自分の命は自分で守る」を合言葉に

- ①津波について知る。
- ②防災マップ作り
 - 避難場所
 - 避難経路
 - 時間
 - 家の人との約束
 - 危険な場所
- ③避難訓練
- ④保護者への啓発

『犠牲者ゼロの田辺』を目指して

平成27年度 新庄地震学



1

和歌山県田辺市について



2



世界遺産
「紀伊山地の霊場と参詣道」



3

過去の津波被害について

1707年 宝永地震
M8.6 津波の高さ約12m

1854年 安政南海地震
M8.4 津波の高さ約8m

1946年 昭和南海地震
M8.0 津波の高さ約4m

田辺市死者・行方不明者46名
新庄地区の死者・行方不明者26名

4



新庄駅付近

新庄公民館提供

5



新庄駅付近

新庄公民館提供

6



大湊神社前の市道

新庄公民館提供

7

津波に対する油断・認識不足が
生死を分ける！

- ・過去の教訓に学ぶ
- ・津波、地震の正しい知識を得る
- ・今できる防災について考える
- ・地震が起こったときの正しい行動を学ぶ
- ・学んだ知識をまわりに広める

平成13年 新庄地震学スタート

8

総合的な学習の時間(週1時間)

教科と関連づけた防災学習

毎年11月の地震学発表会

学んだ情報・成果は学校・地域で共有

新庄中学校の伝統

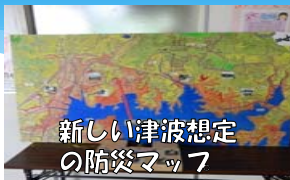
今年で15年目

9

これまでの新庄地震学の取り組み
防災に関する制作物



立体防災マップ



新しい津波想定
の防災マップ



防災横断幕



かまどベンチ

10

これまでの新庄地震学の取り組み
幼稚園・小学校・高校との連携



歌とダンスで防災学習



防災カルタ



防災紙芝居



工業高校と発電研究

11

これまでの新庄地震学の取り組み
地域の方との交流



地域の方から聞き取り



「語り部」DVD制作



安否札の配布



かまどベンチで炊き出し

12

今年度の地震学のテーマ

ひろげる

～人、地域、未来へ～

13

今年度の地震学の内容

1	国語	防災標語
2	社会	過去と現在の対比
3	数学	風を使って情報伝達
4	理科	地震と津波のメカニズム
5	英語	英語カルタ
6	美術	新庄地震学カレンダーの制作
7	家庭	非常食・ソーラーキッチン
8	技術	ホームページ制作
9	保健・体育	避難所運営
10	音楽	歌とダンスの防災教育

14

① 国語班

「防災標語」

保護者、小学校、高校から「防災標語」を募集、審査し、優秀作品を表彰する。また、優秀作品を掲示して広める。

15

昨年度 最優秀賞

地震に用心 備えは肝心

防災用品 そろえて安心

新庄第二小学校保護者

震災を

ミライに伝える

ありのままに

新庄中学校保護者

16



防災標語の優秀作品を選んでいるようす

17

② 社会

「過去と現在の対比」

過去の写真の場所を特定し、現在の写真を撮りに行くことで地震が起こり津波が来た時に必要な防災を考える。

18



19

③ 数学班

「凧を使って情報伝達」

三平方の定理を用いて、昨年度からさらに改良した凧を製作し、災害時の情報伝達に生かし、防災意識を広める。

凧の製作過程



21

これまでの凧製作



22

④ 理科班

「防災実験とひまわりの栽培」

防災に関連した実験から、地震や津波のメカニズムを学ぶ。また、ヒマワリを育て、福島県の「ひまわり里親プロジェクト」に参加する。

ひまわりの栽培



地震の波の実験

23

⑤ 英語

「防災英語カルタ」

英語で防災に関するカルタを制作し、小学生に英語を教えるとともに防災意識を高める。

英語カルタの制作



25

⑥ 美術

「防災カレンダー」

防災カレンダーを作成し、地震や津波の危機管理対応や、本校「地震学」の取り組みを紹介する。

26

27



今までの**地震学カレンダー**

28

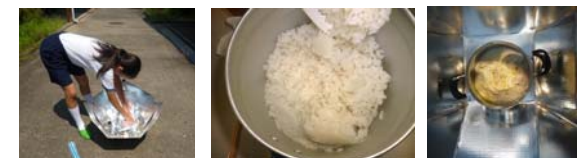
⑦家庭

「非常食・ソーラークッキングの研究」

災害時、ライフラインが止まった時のために、非常食や太陽光を使った調理方法を調べる。

29

ソーラークッキングの活用



30

⑧技術

「地震学ホームページ ラジオ番組の制作」

新庄地震学のホームページやラジオ番組を制作し自分たちの取り組みを広める。

31

ホームページ制作→



←他の班への取材

32

⑨保健体育

「避難所運営 クロスロードゲームづくり」

学校が避難所になった時のことを考え、運営マニュアルやパーティション作成、体操や救命救急を調べる。

33

クロスロードゲーム
をやっているところ



←小学生向けの
クロスロードゲーム
作り



34

⑩音楽

「歌とダンスの防災教育」

歌や創作ダンスを用いて、幼稚園や小学校など、多くの人に防災の啓発活動を行う。

35

歌とダンスの 練習



36

今から4年前

2015年4月25日14時46分

東日本大震災発生

マグニチュード **9.0**

最大震度 7

死者・行方不明者 2万人以上



37



東日本大震災 当日 新庄中学校体育館

38



東日本大震災募金活動II

新庄中学校・新庄小学校・
新庄第二小学校の
三校で合同募金活動

39

そして今年

2015年4月25日

ネパール大震災発生

マグニチュード **7.8**

負傷者 2万人以上

死者・行方不明者 8千人以上



40

昨年、東京で行われた 『中学生・高校生による全国防災会議』 でネパールの高校生と交流



ネパールの高校生の発表



全国から150名の中学生・高校生が参加

41



ネパール大地震募金活動

42

最後に

・昭和南海地震から、今年で69年

・今後30年で地震が起こる可能性が高い

* 新庄地震学に取り組むことで、私たちは今以上に防災への意識を高めていきたいと思えます。そして、先輩たちがつくってきた新庄地震学をしっかり引き継いでいきたいです。

* また、今年のテーマにもあるように、学んだことを多くの人にひろげていきたいと思えます。

43

第2回防災教育推進連絡協議会in田辺 「防災教育と地域連携」



和歌山県 田辺市立新庄中学校
平成27年8月20日(木)

1

1. 本校の防災教育について

2

防災教育の目的

- ・地域の自然や恵みを学び、時に起こる災害に対して日頃から備えることの大切さを学ぶ。
- ・教科と関連づけて地震や津波についての正しい知識を学習する。
- ・いざという時の実行力を高め、生き抜く力を育む。
- ・防災学習を通して地域との連携を深める。

1年生 地域学習



2年生 学年劇



3年生 新庄地震学

- ・定期的な避難訓練
- ・他の学校との交流活動
- ・田辺市のハザードマップを活用した授業
- ・全校学期に1回、3年間の計画的な防災授業

3

防災教育とは・・・

危険回避行動・非常時の対応

→負の状況への対処

→自分たちの住む町が危険



地域の自然の恵み、文化や伝統を
学習して、ふるさとへの愛着や誇り
を高めていくことが大切

4

平成27年度1年生 地域学習

1	天然記念物「奥山の甌穴」
2	天然記念物「鳥の巣泥岩岩脈」
3	天然記念物「神島」と南方熊楠
4	大湊神社と祇園さん
5	新庄の漁業
6	新庄杜氏唄
7	新庄地質学

5



6



8

大湊神社の石碑



9

新庄地質学



10

新庄地質学



11

2年生 学年劇



H25年度
「稲むらの火」

H26年度
「エルトゥールル号」



12

H25年度「稲むらの火」



13

今年度は・・・
新庄の物語を制作中



2年生が演劇の事前学習をかねて、神戸市「人と防災未来センター」に社会見学

14

3年生 新庄地震学



15

防災教育

→ ふるさと学習の一環

- ・ 自然や恵みが多い
- ・ 時には災害も起こる

怖がるのではなく、備える
こと（＝防災教育）が大切

16

2. 防災教育を継続するために

① 毎週1時間カリキュラムに
組み込まれている

（3年生の総合的な学習の時間）

17

18

②学年をこえた運営組織

中学校と公民館が連携して子どもを育てる取り組み
「新庄地域共育コミュニティ」

3つの里づくり

学び合いの里

ふれ合いの里

研究部会

防災の里

各学年から1名、それぞれの部会に所属

19

③教科と関連した防災学習



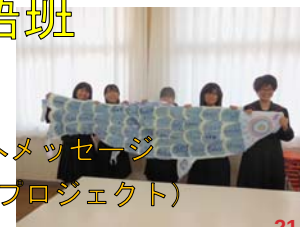
英語で防災カルタ



英語班



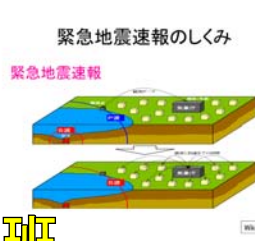
英語で東北へメッセージ
(青い鯉のぼりプロジェクト)



21



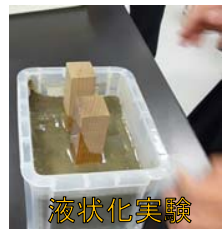
福島ひまわり
里親プロジェクト



緊急地震速報のしくみ

緊急地震速報

理科班



液状化実験



津波の実験

22

教科と関連した防災学習



各担当教師が、自分の専門分野
で防災に取り組むことができる

23

④楽しんで取り組める

防災学習

24



風



横断幕



かまどベンチ



防災マップ

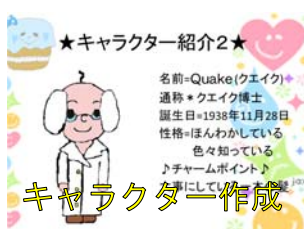
25



カルタ



紙芝居



キャラクター作成



歌とダンス創作

26



かまどベンチで
炊きだし



空き缶で炊飯



ソーラークッキング



避難所体験

27

防災→怖い、悲しい

- ・ものを作る楽しさ
- ・共同作業する楽しさ
- ・人に伝える楽しさ



生徒の自発的な行動

28

⑤「誰かの役に立っている」 とを感じる防災学習

29



30



31

- ・小学生と交流
- ・地域への貢献や募金活動



誰かの役に立っている
自分が必要とされている



自尊感情・自己肯定感の向上

32

⑥地域と連携した防災学習

33



34



35



36

地域と連携した防災教育



- ・過去の災害を後世に残す
- ・地域の一員という意識
- ・共助の意識
- ・中学生が助ける側に

37

⑦自分たちの取組を発信、 交流する場をつくる

38

田辺市津波防災シンポジウム

平成25年11月5日（火）

紀南文化会館



39

シンサイミライ学校交流会

平成25年8月8～10日

宮城県石巻西高校



9校120名参加

大川小学校

40

中学生・高校生による全国防災会議

東京オリンピック記念青少年総合センター

平成26年1月10～12日



全国44校146名の生徒 ネパール、スリランカ、中国から10名

41

中学生・高校生による全国防災会議



42

中学生・高校生による全国防災会議



提言を文部科学省へ提出

43

1. 17震災メモリアル行事 阪神・淡路大震災を忘れない ～21世紀をになう私たちの使命～

兵庫県立舞子高等学校

平成26年1月15日



ハネルディスカッション

分科会で発表

44

全国防災ジュニアリーダー育成合宿

人と防災未来センター

国立淡路青少年交流の家

平成26年12月25日（木）～27日（土）



全国から16校120名が参加。人と防災未来センター見学、各校の交流、ワークショップ、講義、発表など、防災やボランティアについて学習。

45

交流会に参加した生徒の感想

- ・多くの人とつながりをもてた。
- ・防災仲間ができ、元気がもらえた。
- ・まだ復興が進んでいない場所も多くある。
- ・決めた提言を全国・世界に伝えていきたい。
- ・防災の発信者になりたいと思いました。
- ・防災についてもっと知りたいです。
- ・提言を頭に入れて日頃から実践していけば、世界が変わると思った。

46

交流を通して生徒が学んだもの



- ・被災地の現状と復興の様子
- ・日常生活における防災意識
- ・人と人との絆
- ・協力してやり遂げる行動力

47

⑧他者から評価される機会 を得る

48

ぼうさい甲子園 表彰式・発表会

兵庫県公館 平成27年1月11日



人と防災未来センター



グランプリ受賞



兵庫県知事からの表彰



受賞団体と交流会

49

第3回 国連世界防災会議 「ジャパン・レジリエンス・アワード 2015」



国連世界防災会議
防災教育国際交流
フォーラム



グランプリ受賞



安部首相夫人から表彰



なでしこジャパン監督と
なでしこジャパン監督と

宮城県仙台市 平成27年3月14～15日

50

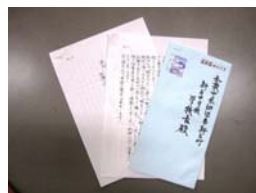
新聞 ラジオ テレビ



公民の教科書

51

全国からのお手紙



県外に住んでおられる、田辺市出身の方からのお手紙



・想えば昭和21年12月21日未明の南海地震の悲惨な光景が昨日の如く蘇って、学ぶことよりも衣・食・住に貧乏な事が思い出されました。

・日本の近未来を担う多くの若者が田辺市新庄で育っている姿を見て、前途洋々とした明るい日本の未来を確信致しております。

52

他者から評価をしてもらうことで

- ・自分たちの活動の振り返り
- ・達成感、自己肯定感の向上
- ・下級生の意識向上、次年度への動機付け

53

防災教育を継続していくために

- ・カリキュラムに防災教育
- ・組織づくり（複数の防災担当）
- ・生徒が楽しめる内容
- ・地域との連携（協力を求める）
- ・生徒が発信・交流できる場をつくる
- ・活動を他者に評価される機会

54

3. 防災教育のめざして いくところ

55

防災教育

行動スキルを 高める

- ・的確な判断力
- ・災害についての知識
- ・行動技能や運動能力
- ・訓練での経験
- ・相互救助

防災意識を 高める

- ・危険の認知
- ・人と人とのつながり
- ・コミュニケーション力
- ・他者へのいたわり

自己啓発の高揚とスキルの向上
学校における防災教育は集団での学習で身につける。

56

「田辺市ハザードマップWEB版」を用いた避難訓練シミュレーション授業



登下校中の避難訓練（学校以外に避難）



57

今後おこなっていきたいこと

- ・これまでの活動の継続
- ・行動スキルを高める防災学習
- ・3年間での、生徒の意識の変化
- ・教職員の災害時の行動の確認
- ・命と向き合う防災学習

58

新庄地震学の感想

- ・避難場所や地震が起きたときどうするかなどを家族で話そうと思いました。
- ・完成したときの達成感や協力し合うことの大切さを学ぶことが出来ました。
- ・カレンダーを通してつながりの輪がどんどん広がることを願っています。
- ・防災への感心が高まり、地域の人々とのつながりを深めることができました。
- ・お互いに得意な分野で助け合えば何かできることがあること、お金をかけなくても工夫すれば、すばらしいものが出来ると思いました。

59

防災教育を通して・・・

災害時の力だけでなく

- ・正しく判断する力
- ・主体的に行動する力
- ・コミュニケーションをとり協力する力

などたくさんの力を身につけることができる

60

最後に

新庄地震学は15年目、第1期生は今年30歳になり、地域を担う若者になっています。続けていくことで、将来にわたって災害に強く、助け合えるまちづくりに貢献できることを願っています。

61

グループディスカッション資料

グループディスカッション 平成 27 年 8 月 21 日（金） 9:00～10:30
GD を踏まえた討論会 “ 14:00～16:00

■グループディスカッションの内容

- ・前日のパネルディスカッションを踏まえて、以下の 2 つのテーマについて参加者間で意見交流してください。
- ・議論した内容については、テーマごとに模造紙一枚にまとめてください。

テーマ 1 「防災教育のためのコミュニケーション力」

- ・効果的な防災教育を実践するために、児童生徒に対して、どのような教え方が求められるのか？
ーそもそも“効果的な防災教育”といった場合、何ををもって“効果”とするのか？
ー効果的な防災教育を実施するために、教員に求められる“指導力”とはどのようなものか？
- ・具体的にどのような授業案であったり、体験学習や調べ学習などの実践が考えられるか？
ーこれまでに実践した防災教育の内容やそれによって得られた効果はどのようなものであったか？
ー今度、どのような実践が必要だと思うか？

など

テーマ 2 「地域と連携した防災教育とその継続」

- ・地域と連携した防災教育を実践するにあたり、重要なことは何か？
ー具体的にどのような内容で、どこと連携をとることで、どのような実践が考えられるか？
ー地域と連携をとる際に、障壁となるか？ また、それを乗り越えるにはどうしたらよいのか？
ーこれまでに実践した防災教育では、地域とどのような連携をとってきたか？
- ・防災教育を継続するために重要なことは何か？
ーこれまでに各学校で防災教育を継続するために取り組んできたことはあるか？
ー継続のための仕組みのあり方は？

など

■グループディスカッションを踏まえた討論会

- ・午前中のグループディスカッションを踏まえて、参加者全員で討論します。
- ・討論会の冒頭で、各グループの代表者からグループディスカッションで議論した内容を 5 分程度で発表していただきます。

■グループディスカッションの班分け

グループディスカッションの班分けは、裏面のとおりです。

小学校 1		
菊池 信男	釜石市立栗林小学校	校長
濱野 公壽	尾鷲市立尾鷲小学校	教頭
山本 健一	新宮市立王子ヶ浜小学校	教諭
畦地 和也	黒潮町教育委員会	教育次長
上田 好美	牟岐町立牟岐小学校	教諭
熊野 雅仁	田辺市教育委員会 生涯学習課	係長
小学校 2		
大森 美子	釜石市立鶴住居小学校	教諭
畑中 祥司	尾鷲市立尾鷲小学校	教諭
稲垣 克明	新宮市立三輪崎小学校	教諭
二岡 裕幸	黒潮町立佐賀小学校	教頭
森本 晋也	岩手県教育委員会事務局 学校教育室	主任指導主事
嶋口 善一	田辺市教育委員会 学校教育課	指導主事
小学校 3		
松本 孝嗣	釜石市教育委員会 学校教育課	指導主事
大川 太	尾鷲市立矢浜小学校	教頭
林 宣行	串本町立古座小学校	教諭
中平 巖	黒潮町立田ノ口小学校	教諭
栗林 啓次	牟岐町教育委員会	社会教育指導員
中田 詩子	田辺市立田辺第二小学校	教諭
中学校 1		
松本 潤	新宮市立緑丘中学校	教頭
宮川 昭二	黒潮町立大方中学校	主幹教諭
五十嵐 一浩	三条市立第四中学校	教頭
小川 正	輪島市立輪島中学校	校長
三浦 洋志	高知市立城西中学校	教諭
榎谷 節生	田辺市立衣笠中学校	教諭
竹邊 礼子	田辺市教育委員会 生涯学習課	生涯学習指導員
中学校 2		
三浦 誠	釜石市立釜石中学校	主幹教諭
西本 貴俊	黒潮町立佐賀中学校	教頭
松井 謙太	見附市教育委員会 学校教育課	課長
廣澤 孝俊	能登町立能都中学校	主幹教諭
山根 千明	田辺市立中辺路中学校	教頭
谷本 明	田辺市立新庄中学校	教諭